

「医療現場見学会」 開催報告

福井県では、県内企業が有する繊維・メガネ・機械などの高度な加工技術を活用することで、今後成長が見込まれる医療産業への県内企業の進出を促進するため、医療現場サイドと企業との情報交流、販路開拓等を支援しています。

この一環として、福井大学医学部附属病院のご協力の下、医療現場で使用されている手術機器・用具、医療用品・材料等を見学する「医療現場見学会」を開催しました。見学会および医療者との意見交換を通じ、医療現場のニーズ・シーズに関する情報交換や、県内企業が開発すべき医療機器のイメージづくりを進める事を目的にして多数の方が参加しました。

○医療現場見学会

日 時：平成 28 年 2 月 27 日（土）

会 場：福井大学医学部附属病院臨床大講義室ほか

対 象：医療機器関連分野への参入意欲のある県内の企業関係者

内 容：（１）福井大学医学部附属病院の概要説明

（２）医療現場からのニーズ提供

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科医とドラえもん」／「看護業務で必要なもの」

「医療機器・材料の開発ニーズと選択を流通の立場から考える」

（３）施設見学

- | | | |
|-------------|--------|--------------------|
| ・内視鏡部門 | ・放射線部門 | ・メディカルサブライセンター |
| ・栄養部 | ・手術室 | ・滅菌管理部門 |
| ・リハビリテーション部 | | ・メディカルシミュレーションセンター |

（４）情報交換会

参加者：14 企業、18 名

主 催：福井県、ふくい医療産業創出研究会



手術室内に入っの低侵襲外科手術システム見学

開催報告

1. 病院概要説明

福井大学医学部から概要説明がありました。日本にある43国立大学で厳しい運営状態の中、福井大学は全国8番目であり、地元住民の健康福祉に貢献しつつ、黒字決算を維持している事が説明された。また、国民総医療費が40兆円で右肩上がりであり、新事業としての可能性があること、総医療費の多くが外資に流出しているのを、これを国内・県内の皆様に吸収して欲しい事などが伝えられました。

2. 医療現場からのニーズ提供

(1) 『耳鼻咽喉科・頭頸部外科医とドラえもん』

医師の腕の増加、手術中に体を保持させるスーツ、普段は柔軟だが任意のタイミングで先端だけを硬性鏡に早変わりさせる治具、電子機器が頭に直接埋め込まれている事への抵抗と外部聴覚臓器の対処、骨の裏側を削る方法があれば良いなど、現場の直接的な声をお聞かせ頂きました。

(2) 『看護業務で必要なもの』

看護師の業務紹介と、患者や看護師にとって安全・安楽・効率的（操作が簡単）な物に関する要求がありました。また、手術部で欲しい物や滅菌管理部で必要な物、過去に必要性が議論されたが導入に至らなかった案件、感染予防機能に関する事、『あるといいな、こんなの欲しい』といった具体的なニーズ情報の提供がありました。

(3) 『医療機器・材料の開発ニーズと選択を流通の立場から考える』

福井医療株式会社から、医療業界でのビジネスチャンスの確認法が紹介されました。新技術が市場に投入される場合の、導入技術の革新性と製品化コストの関係で採算領域・不採算領域が決定される事、包帯や圧迫包帯や代用皮膚等の一材料と導入を事例に説明されました。このほか、ニーズの選択と開発・事業化の一例が示されました。



ニーズ提供の講演

3. 施設見学

参加者を二班に分けて現場見学会を開催。



放射線部：放射線から身を守る衣料に関する説明



内視鏡部：体内洗浄に液体を連続注入技術の要望説明



リハビリテーション部：各種機器の機能説明



滅菌管理部：滅菌された衣料用具の扱い説明



手術室：手術室内部での各種要望説明



低侵襲外科手術システムの体験

4. 情報交換会

施設見学の後、質問や感想などを述べ合い、また、企業側からは自社の事業内容を告知するなどの情報交換を行った。企業側からの各種提案に対し、医学領域で機能や効果を議論するには症例の定量的評価結果が必要であることなどが示されるなど、業界を超えた情報交換を行うことができ、双方にとって有用な見学会となりました。

お問い合わせ先：技術経営推進室 松井